

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月20日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22500836

研究課題名（和文） 地域基盤型医学教育に従事する医師の動機、ニーズ、障害に関する探索的研究

研究課題名（英文） A survey of primary care physicians' perceptions and needs regarding the community-based teaching of medical students.

研究代表者

前沢 政次（MAEZAWA MASAJI）

北海道大学・名誉教授

研究者番号：90124916

研究成果の概要（和文）：地域基盤型医学教育推進のため、プライマリ・ケア医が医学生・研修医指導を行う上での動機、ニーズ、障害に関して、インタビュー調査を実施し内容分析を行った。結果、3つのテーマが医師の教育活動のために必要であることが示された。1）大学との連携や情報共有、2）指導のための知識・技術の確立、3）後輩医師を育てる使命感・満足感など金銭やインフラ以外のサポートを充実する、といった点である。

研究成果の概要（英文）：There is systematic evidence that community-based education is effective in training medical students. However various obstacles may exist that prevent primary care physicians in community hospitals from sustaining their mentoring activities. The aim of this study is to explore ways for the physicians to overcome such adversities and continue their mentoring activities. Semi-structured interviews were performed for physicians' in order to reveal their perceptions and needs regarding the precepting of medical students in their offices. All interviews were tape-recorded and transcribed, the verbatim transcripts were analyzed, and repeated themes were identified. Three themes that emerged as needs were: 1. sustained significant human relationship, including the formation of a network between students and university faculty, as well as developing partnerships with many community residents or other medical professions; 2. intrinsic motivations and satisfaction, including pleasure in mentoring the younger generations; 3. rewards, including financial compensation. The physicians as preceptors require non remunerative, intrinsic motivational factors, such as a sense of satisfaction regarding the education of medical students and being able to relate to residents and others healthcare professions, when pursuing their educational activity. To support them, focusing only on monetary facets may be unsuccessful for them to continue their educational work.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：医療社会学

キーワード：地域医療、医学教育、社会医学

1. 研究開始当初の背景

「地域基盤型医学教育」とは従来本邦で医師育成の中心となってきた大学病院での教育・研修 (tertiary based medical education) に対して、地域の診療所や病院で医学生や研修医の教育・研修を行う教育を意味する。Harden, S.が提唱した望ましい学習方略 (1984年)の1つでもあり、SPICES、すなわち、Student、Problem、Integrated、Community、Elective、Systematicの頭文字を並べたものの中の、Cに相当する。

1980年代後半から、欧米 (アメリカ・イギリス・オーストラリアなどの地域) では地域基盤型医学教育 (community based medical education) が重視され進められている。その理由として、(1) 地域基盤型医学教育は tertiary based medical education と比べ教育コストが低くなるという経済的な背景、(2) これまでの tertiary based medical education では特殊な症例が多く一般的な症例が少ない、(3) 外来診療に必要な能力も習得できない、(4) 地域基盤型医学教育でも tertiary based medical education と同等あるいはそれ以上の成果が上げられる、(5) 指導者となる地域のプライマリ・ケア医は、地域基盤型医学教育に関心を持っているさらには、(6) ジェネラリスト (総合医) の比率を増やす上でも地域基盤型医学教育は有効であるといった報告があり、地域基盤型医学教育を推進する裏付けとなっている。

プライマリ・ケア医が自身の仕事を増やし、臨床的な収益を下げても医学教育に興味を持って従事する要因には、欧米の先行研究で、教育報酬以外の理由、すなわち、教育に携わる満足感、自らの知識や技術が増えること、あるいは、教育に対する責任感、医学教育を通じて高次医療機関の教員とのネットワークができサポートが得られるなどの理由が挙げられている。その一方で、経済的な外圧や、教育のために診療時間が制約を受けることによる臨床的な収益の低下の理由で、プライマリ・ケア医が医学教育に従事し続けられなくなりバーンアウトすることも指摘されている。

以上のような背景のもと、本邦においても従来の専門医による専門領域偏重の医学教育や、医師の基本的診療能力の不足の見直しから、現在、卒前・卒後教育の改革が行われている最中である。地域基盤型医学教育はそれら教育改善の一方略と期待されているが、本邦ではこの領域の研究はほとんど行われていない。今回の計画のように、地域基盤型医学教育に従事する医師が医学教育を行う上

での動機、ニーズ、障害について、特に、インタビューを用いた質的調査によって探索的に調べた例はない。質的研究は数値では捉えきれない人間の情緒や思考、心理・本音を探ることを目的にしており、医学分野では量的研究を補完して現象の解明に有効であるとして、最近広まりつつある社会調査手法である。

2. 研究の目的

地域基盤型医学教育推進のための基礎資料として、プライマリ・ケア医が医学生・研修医指導を行う上での動機、ニーズ、障害に関して、現場の声をくみ上げるインタビュー調査を行うことで、プライマリ・ケア医が後継者を育成するための教育活動の支援を目的とした研究である。

3. 研究の方法

半構造化個人インタビューとフォーカスグループインタビュー (FGI) を医師、医学生を対象に実施し、内容分析を行った。インタビューアーは、事前に研究者自身の立場がインタビュー調査へ与える影響を明らかにしてから半構造化面接、FGIに臨む。データ採取と分析は並行して行った (継続比較法)。また、データは全て録音して活字化され、2名以上の研究者が独立に分析を行い、合意に至った結果をもう2名の別の研究者に提示して協議し、最終合意とした。分析においては、面接記録の言語データを意味の区切りでセグメント化し、データ外の語句で言い換えた。そして、それに説明を付し、浮かび上がるテーマ・構成概念を考案しながらコーディングをした。さらに、そのコードを比較検討しながらテーマを抽出する形で分析を進めた。最後に抽出されたテーマについて、対象者に結果を戻す再確認のプロセス (メンバーチェック) を実施した。研究内容についての経過は、なぜそのような結果に至ったのかをたどって監査できるよう、全て厚い記述の形で残した。研究手法のトライアングレーション、事前のパーソナルインベントリー、分析に関するピアデブリーフィング、最終的な結果のメンバーチェック、全経過に関するオービットトレールの各種法を用いて、研究中の全ての経過で、研究者による恣意的な解釈がなされないように注意し、かつ、誰もがなぜそのような結果に至ったかの経過を十分理解出来るように努めた。

具体的には、H22年度には、半構造化個人面接を医師5名を対象に実施した。そのデータの分析を行い、議論点の絞り込みと FGI の計

画策定を行った。H23 年度には、FGI (1 グループ 120 分×2 グループ、医師計 11 名、学生 3 名) を日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 (札幌) にて行った。最終年度である H24 年は、今までの研究成果をまとめ、2 つの学会 (世界一般医・家庭医学会アジア太平洋学術会議 (韓国) と日本医学教育学会 (横浜)) で発表、分析や考察の再考や、他研究者の議論を通じて、最終結論を導いた。

4. 研究成果

地域基盤型医学教育を行う医師を支えるために、(1) 大学との連携や情報共有、(2) 指導のための知識・技術の確立、(3) 後輩医師を育てる使命感・満足感など、金銭やインフラ以外のサポートを充実する必要性が示された。現場の医師が求めているものは、金銭的支援は勿論であるが、それ以外の非金銭的支援、すなわち、具体的には現場医師の立場であれば、人間関係のネットワークといった人的サポートへの期待や、教育者として後輩医師を育てるという満足感、プライマリ・ケア医としてのアイデンティティの確立などが、地域基盤型医学教育に携わるための原動力になっていると考えられた。

研究成果の社会的還元の一環として、地域の一般住民・医療関係者・行政関係者対象に、本研究内容に関連する講演を行った。また、最終目標とした地域基盤型医学教育のモデル作成・提案についても、現在、研究者が所属する北海道大学での医学教育推進センターの機能強化を図り、地域の医療機関との連携という形で、検討が行われている。一連の研究の中で、地域基盤型教育に多職種連携の要素を取り入れる必要性も示唆された。それについて、H25 年度以降の研究に反映し継続して取り組んでいる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

① 村上学、川畑秀伸、前沢政次：[BAY] 僻地で地域基盤型医学教育に従事する医師のニーズ - 質的インタビュー調査 -、北海道医学雑誌、査読無、88(1)、30、2013。ISSN: 0367-6102

② Murakami M, Kawabata H, Maezawa M.: What rural physicians need to engage in community based education: a qualitative interview survey. J Rural Med、査読有、7(1)、38-41、2012。

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jrm/7/1/7_2851/_pdf

[学会発表] (計 6 件)

① 前沢政次：地域で展開する総合医、地域で育てる総合医。山梨の地域医療の担い手を養成する研究会 (招待講演) 2013.03.16. ホテル石風 (山梨県笛吹市)

② Murakami M, Kawabata H, Maezawa M.: "What primary care physicians need for community based education in rural settings." WONCA Asia Pacific Regional Conference: 2012.5.26. ICC JEJU (JEJU Korea).

③ 前沢政次：総合医と内科医。日本内科学会 第 44 回教育病院連絡会議 特別シンポジウム (招待講演) 2012.07.21. 東京国際フォーラム (東京都)

④ 村上学、川畑秀伸、木佐健悟、前沢政次：プライマリ・ケア医がへき地で地域基盤型教育に従事する際のニーズに関する探索的調査、第 44 回医学教育学会、2012.7.28. 慶應義塾大学日吉キャンパス (横浜市)

⑤ 前沢政次、川畑秀伸：「Primary Care Pipeline」PC 医育成のための学会への提言。第 2 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 2011.7.3. ロイトン札幌 (札幌市)

⑥ 前沢政次：地域医療はいつ、どこで学ぶか。北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2011「地域医療フォーラム」2011.10.30. 北海道大学学術交流会館 (札幌市)

[その他]

ホームページ等

一般社団法人 地域医療教育研究所

<http://www.ccpc.or.jp/>

北海道大学大学院医学研究科 医学専攻 社会医学系 社会医療管理学講座 医療システム学分野

<http://hsr.med.hokudai.ac.jp/>

Web サイトにおいて、学会発表と発表論文の紹介のみならず、本研究に関連して地域で行った様々な活動 (医療職や地域住民が参加した講演会、セミナー、ワークショップ) を紹介している。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

前沢 政次 (MAEZAWA MASAJI)

北海道大学・名誉教授

研究者番号：90124916

(2) 研究分担者

川畑 秀伸 (KAWABATA HIDENOBU)

北海道大学・大学院医学研究科・准教授

研究者番号：20325864